

テーマ：消費者物価（全国13年10月、東京都区部13年11月）
 ～11月には前年比+1%超えへ～

発表日：2013年11月29日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：%）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
12	1月	0.1	▲ 0.1	▲ 0.9	4.3	0.3	▲ 0.2	▲ 0.4	▲ 1.1	4.4	▲ 0.3
	2月	0.3	0.1	▲ 0.6	3.0	0.4	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 1.1	3.9	▲ 0.2
	3月	0.5	0.2	▲ 0.5	4.2	0.3	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.0	5.3	▲ 0.2
	4月	0.4	0.2	▲ 0.3	3.9	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 1.0	3.5	▲ 1.2
	5月	0.2	▲ 0.1	▲ 0.6	1.5	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.3	0.3	▲ 0.7
	6月	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 1.7	0.1	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 3.2	▲ 0.6
	7月	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 4.0	0.1	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 5.0	▲ 0.6
	8月	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 4.1	0.0	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 3.8	▲ 0.8
	9月	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.6	1.8	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 1.1	2.5	▲ 0.7
	10月	▲ 0.4	0.0	▲ 0.5	3.9	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 1.0	3.4	▲ 0.9
	11月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.5	2.8	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.9	2.4	▲ 1.0
	12月	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.6	3.1	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 1.0	1.7	▲ 1.2
13	1月	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.7	4.8	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.9	3.8	▲ 1.0
	2月	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.9	7.9	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 1.0	7.0	▲ 1.1
	3月	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 0.8	1.8	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.9	▲ 1.2
	4月	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 1.7	▲ 0.8
	5月	▲ 0.3	0.0	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2	0.1	▲ 0.3	0.0	▲ 0.7
	6月	0.2	0.4	▲ 0.2	5.0	▲ 0.3	0.0	0.2	▲ 0.4	6.2	▲ 0.6
	7月	0.7	0.7	▲ 0.1	8.4	▲ 0.3	0.4	0.3	▲ 0.4	9.5	▲ 0.4
	8月	0.9	0.8	▲ 0.1	10.5	0.0	0.5	0.4	▲ 0.4	9.9	0.1
	9月	1.1	0.7	0.0	7.6	0.1	0.5	0.2	▲ 0.4	7.6	0.2
	10月	1.1	0.9	0.3	6.4	0.2	0.6	0.3	▲ 0.2	5.7	0.4
	11月	—	—	—	—	—	0.9	0.6	0.2	7.0	0.4

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ 米国型コアが2008年10月以来のプラスに

総務省より発表された2013年10月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.9%（9月+0.7%）と、前月からプラス幅が0.2%Pt拡大した。結果は市場予想（+0.9%）通り。

今回特筆されるのは、「食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）」が前年比+0.3%と、2008年10月以来のプラスに転じたこと。米国型コアは13年2月の▲0.9%をボトムとして着実に改善してきたが、ようやくプラス圏に浮上した。10月は傷害保険料の値上げがあったことで押し上げられている面もあるが、傷害保険料を除いた米国型コアを計算しても前年比+0.1%であり、やはりプラスに転じている。国内経済は景気回復が明確化しているが、こうした景気の好調さが物価にも好影響を与えているものと思われる。足元では上昇品目に広がりが出始めていることも好材料だ。

米国型コアのプラス転化は、エネルギー以外の品目にも改善の動きが出始めていることを示している。これまではエネルギー頼りの物価上昇だったが、今後は徐々に内容を伴った物価上昇に変わっていくことが期待される。

CPIコアを品目別に見ると、10月は傷害保険料の値上げの影響が大きかった。これによりCPIコアは

0.14%Pt 押し上げられている。また、外国パック旅行も上昇し、前年比の寄与度が前月から 0.03%Pt 改善したほか、前年の裏の関係で放送受信料（NHK）のマイナス寄与も消えた（前年比寄与度、9月：▲0.03%Pt→10月：0.0%Pt）。そのほか、食料品（生鮮除く）のプラス寄与も拡大し、押し上げ要因になっている（前年比寄与度：9月+0.02%Pt→10月+0.07%Pt）。一方、プラス幅縮小方向に寄与したのはガソリン価格と自動車保険料（任意）。ともにプラス寄与が縮小したが、傷害保険料などの押し上げが勝り、CPI コアでは前月から 0.2%Pt プラス幅が拡大している。

季節調整済みの前月比で見ると、CPI コアが+0.2%（9月：▲0.1%）、米国型コアも+0.2%（9月：▲0.2%）だった。季節調整値で見ても、米国型コアの緩やかな改善が確認できる。

○ 東京都区部が大きく改善

2013年11月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.6%と、プラス幅が前月（+0.3%）から 0.3%Pt 拡大した。市場予想（+0.4%）を大きく上回るちょっとしたサプライズだ。また、米国型コアも前年比+0.2%と、前月の▲0.2%から大きく改善し、プラスに転じた。東京都区部の米国型コアがプラスになるのは2008年12月以来のことだ。傷害保険料を除いた米国型コアを計算しても前年比+0.1%とプラスに転じている（10月：▲0.4%）

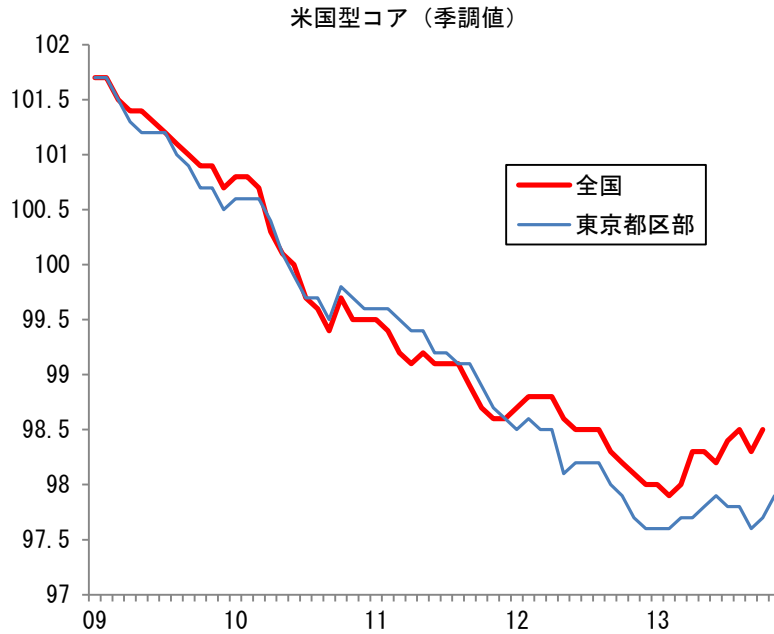
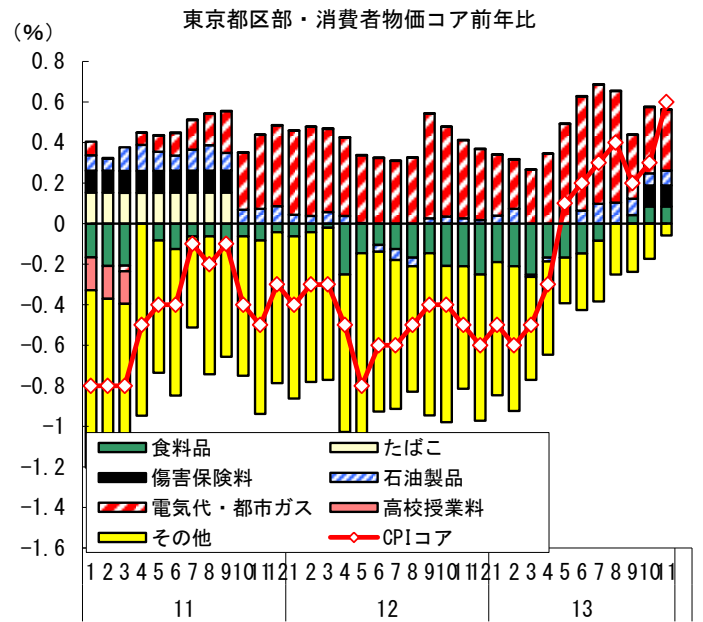
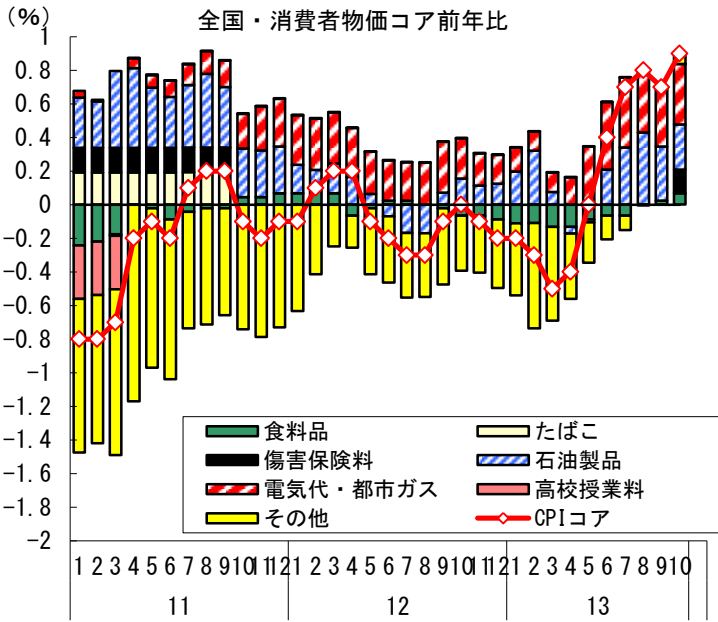
今月は、電気冷蔵庫やルームエアコンなどの家庭用耐久財（前年比寄与度、10月：▲0.02%Pt → 11月：+0.03%Pt）や、テレビなどの教養娯楽用耐久財（前年比寄与度、10月：▲0.01%Pt → 11月：+0.04%Pt）がプラスに転じるなど、耐久財の上昇が目立った。パソコン等の上昇も継続しており、このところの耐久財価格の改善トレンドが続いている。そのほかの品目では、外国パック旅行や宿泊料がプラス寄与を拡大させたほか、前年の値下げの裏が出たことで携帯電話機（前年比寄与度、10月：▲0.02%Pt → 11月：+0.03%Pt）がプラスに転じたことなどが目立った。なお、11月はガソリン、電気代といったエネルギー価格には大きな変化はなかった。

季節調整済みの前月比で見ると、CPI コアが+0.1%（10月：0.0%）、米国型コアは+0.2%（10月：+0.1%）だった。米国型コアでは2ヶ月連続のプラスである。

○ 11月は+1%超えに

東京都区部の動向から判断すると、2013年11月の全国CPI コアは前年比+1.1%～+1.2%が予想される。+1%超えはほぼ確実であり、耐久財の動向次第では+1.2%の可能性もある。+1%の大台を突破することで、物価の改善が改めて意識されることになるだろう。米国型コアのプラス幅が一段と拡大することも、好材料として受け止められる可能性が高い。

11月は、外国パック旅行や宿泊料、携帯電話機などが押し上げに寄与する見込み。また、耐久財も改善するとみられ、CPI を押し上げるだろう。



(出所) 総務省「消費者物価指数」